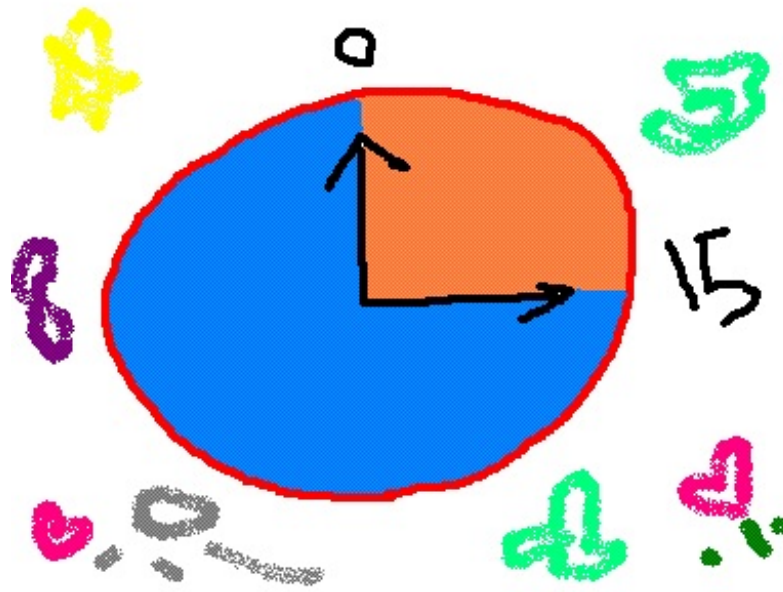




# 15秒で読める Twitter小説



## はじめに&目次もどき

---

Twitter小説をまとめてみました。改行を入れて読みやすくしてあります。140字というぎりぎりの文字数制限の中で何ができたか、できるかを楽しんでいく現在進行形の本です。

それなりに、いくつかに分類してみました。興味に応じてのぞいてみてください。  
気に入っていただけるものがあれば幸いです。

- 【故事成バ】 ..... 中国の故事をもとに、Twitter小説にしてみました。
  
- 恋愛..... 140字で書いてみた恋愛
  
- SF・ファンタジー..... SFやファンタジー的なネタをあつかったもの
  
- 雑..... 意味不明なものから分類しにくかったものまで、ごった煮状態です

表紙イラスト：ペソちゃん、ありがとう。

## 【故事成ハ】画鬼容易

---

「鬼を描くのが上手だね」

「君には負ける、君は犬を描くのがうまい」

「犬など誰でも描ける。鬼のほうが難しいだろう」

「いや誰でも知っているから上手下手がはっきりわかる」

「じゃあ、ひとつ鬼を描いてみよう」

「なんだ鬼じゃなく犬じゃないか」

「鬼が見えるような言い草だな」

## 【故事成ハ】 甄後の枕

---

「かつて君を妻にと求めたとき、父は私ではなく兄に君を嫁がせた」

曹植は、甄後の枕に語りかけ、さめざめと泣いた。すると枕から甄後が現れ、

「私もお慕い申し上げておりましたが、想いがかなうことはありませんでした。やっとおそばに……」

これが抱き枕の発祥、という伝説はない。

## 【故事成ハ】 奪錦

---

「詩ができた者に褒美をとらせよう」

「できました」

「よしよし、では錦の服を与えよう」

「ありがたき幸せ、さっそく着させていただきます」

「こちらはいかがでしょうか」

「これはすばらしい。おい、さっきの服を返せ、こっちの者に与える」

「ありゃ、元の服を捨ててしまいました」

## 告白

---

彼女は真剣な顔をして、彼の前にお酢とキューピーマヨネーズをならべた。

「急にどうしたの？」といわれて真っ赤になって小皿にお酢を入れ、キューピーマヨネーズをそえてさしだした。

彼はげんなりした顔をして「やめとく」彼女のがっかりした顔。それでは伝わってないと思う。

「ねえ」「ん？」顔をあげる。彼女はだまっている。恋愛小説に目をもどす。

「ねえ」「ん？」顔をあげる。彼女はだまっている。また目をもどす。

「ねえ」「ん？」顔をあげる。彼女はだまっている。いらいらして目をもどす。

次に顔をあげると彼女はもういなかった。何がいたかったんだろう、まさか。

いけない

---

とどめの一言をもらった。いけない言葉を抱いて遠くから一人の人を見つめる日々は終わり、いけない心を抱いて一人の人を遠くへとおしやろうとする日々が始まった。とどめの一言？それは……いけない。



## 手

---

宇宙船の扉が開いて、観測機器をしっかりとにぎりしめた手がゆっくりと外にのばされた。

「はじめまして」火星人は近づき、触手のような手をさしだした。

返事はなかった。そこにはただ、上半身だけのロボットが乗っていた。

## 目には目を

---

相手の足がぼろりととれた。すると「目には目を、歯には歯を」と足をもがれた。  
うっかり二本もとられたので文句をいったら、もう一本とっていいことになった。  
「もう一本いく？」百足同士のけんかはしだいに、わけがわからなくなっていった。

## 宝くじの当たる神様といわれてたずねたら

---

そこには小さな廟があり、口がとがっていて全身に毛の生えた奇妙な神が祭られていた。何の神かとたずねたら、戦勝神だという。神の名をたずねると「斉天大聖」といわれた。孫悟空のことだった。

いったい？

---

「こわれたぷりんたーのだいたいきがきたな さっそくせってい」を「壊れたプリンターの抱いた息が汚 殺鼠癖ってい」と変換した某ネット喫茶のパソコン、どんな人が使っていたやら。

## たんこぶの話

---

コードのトラップにひっかかってガラス戸に激突した。激痛だが火花は散らなかった。しばらくして大きな瘤ができた。あまり立派なので物差しを当てたら、3センチ以上盛り上がっていた。事実は小説より奇。

## がま口とは呼ばない

---

神保町で小さな手さげバッグを拾った。十分ほど待ったが落とし主がこないで、念のため中身を確認すると、あけたとたんにお札がそのまま束になって入っていた。そのとき、落とし主が「がま口、がま口」といいながら現れた。事実は小説より奇。